

# 第二〇回 稚魚の会 合同公演

平成二十六年 八月十四日(木)～十八日(月)  
十二時開演

国立劇場歌舞伎俳優研修修了生・既成者研修発表会  
〔協賛〕松竹株式会社・一般社団法人伝統歌舞伎保存会

## 菅原伝授手習鑑

三幕

竹田出雲・三好松洛・並木千柳・竹田小出雲 作  
すがわらでんじゆてならいかのみ

中村 又五郎 監修・指導

### 車引

舎人 梅王丸 中村吉二郎  
舎人 松王丸 尾上音之助  
舎人 桜丸 中村竹蝶  
舎人 杉王丸 尾上松悟  
金棒引 藤内 市川新十郎  
左大臣 藤原時平 尾上音藏

### 賀の祝

舎人 桜丸 澤村伊助  
桜丸 女房八重 中村春希  
舎人 梅王丸 市川喜猿  
梅王丸 女房春 市川升吉  
舎人 松王丸 市川喜之助  
松王丸 女房千代 中村梅乃  
佐太村の白太夫 松本錦二郎

### 寺子屋

舎人 松王丸 中村又之助  
松王丸 女房千代 中村春之助  
武部 源藏 中村吉六  
源藏 女房戸浪 片岡松寿  
春 藤玄番 中村仲助  
涎くり与太郎 大谷桂太郎  
下男 三助 尾上音藏  
御台園生の前 中村梅乃

中村吉右衛門 監修・指導  
中村 魁春 監修・指導  
中村 又五郎 監修・指導



- 観劇料(全席指定) 一般4,100円/学生2,900円 ※障害者の方は2割引です。 ※車椅子用スペースがございます。ご予約時にお問い合わせください。
- 予約開始=7月11日(金)10時~ [電話] 国立劇場チケットセンター(10時~6時) 0570-07-9900/03-3230-3000 [一部IP電話等]  
[インターネット(一般券のみ)] <http://ticket.ntj.jac.go.jp/> [パソコン]  
※詳細はホームページをご覧ください。 <http://ticket.ntj.jac.go.jp/m> [スマートフォン]
- 窓口販売開始=7月12日(土)(チケット売場10時~6時) ※窓口販売用に別枠でのお取り置きはございません。
- 一般のみ取扱=チケットぴあ 0570(02)9999・e+(イープラス) <http://eplus.jp/> [パソコン] <http://eplus.jp/ntj> [ケータイ]

国立劇場 小劇場

〒102-8656 東京都千代田区千代田4番1号 03(3265)7411(代表)  
<http://www.ntj.jac.go.jp/>

〔姓名の五十音順〕

# 稚魚の会 歌舞伎会 合同公演

八月十四日(木)～十八日(月) 十二時開演

国立劇場が昭和四十五年から実施してきた歌舞伎俳優の新人研修は、すでに二十期にわたり修了生を送り出し、現在歌舞伎界で活躍しています。彼ら研修修了生たちによる「稚魚の会」、そして一般名題下を中心とした既成俳優たちから構成される「歌舞伎会」の両会が、日頃の修練の成果を發揮する場として、毎年八月に「合同公演」として開催させていただいています。本年はこの合同公演がおかげさまで二十回目を迎えます。

この節目の年に、歌舞伎三大名作の一つである、『菅原伝授手習鑑』より、人気の高い場面である、「車引」「賀の祝」「寺子屋」を上演します。



## 菅原伝授手習鑑

平安時代に生きた悲劇の宰相であり、「天神さま」として幅広い信仰の対象となつて菅原道真(菅丞相)が宮中で争いに巻き込まれ、九州へ配流される過程を描いた物語です。今回は、それぞれの立場からこの政争に巻き込まれながら、丞相への御恩と忠節を全うしようという、三つ子の兄弟の物語を中心にご覧いただきます。

菅丞相が左遷された宮中の政変は、梅王丸、松王丸、桜丸の三つ子の兄弟の運命を大きく変えます。梅王丸と桜丸は失脚した菅丞相や齋世親王の家臣、松王丸は丞相の政敵・藤原時平に仕える身なのです。

### 【車引】

政変によって、梅王丸・桜丸と松王丸は兄弟の間で対立する仲となります。吉田神社に参詣に来た時平の車の前で兄弟たちの争いが繰り広げられます。時平に襲い掛かろうとする梅王丸と桜丸ですが、車から現れた時平の偉容を前に身動きが取れません。三兄弟は父・白太夫の七十歳の賀を祝う席での再会を約して別れるのでした。歌舞伎の様式美、荒事の醍醐味に彩られた一幕です。

### 【賀の祝】

白太夫の祝いの席に、三兄弟の女房(春、千代、八重)がかいがいしく身尽くす一方、そこでも大喧嘩を繰り広げる梅王丸と松王丸。それぞれ自分の身の振り方を白太夫に願い出、父に追い出される格好で梅王丸、松王丸夫婦が去った後、家の奥から現れたのは桜丸。自分が主人・齋世親王と丞相の娘・お屋姫との恋の取り持ちを買って出たことが二連の政変につながった責任を感じた桜丸は切腹を覚悟していました。父白太夫の打つ鉦撞木が哀しく響く中、桜丸はその若い命を散らすのでした。純朴な農村佐太村に訪れた悲劇、人々の嘆きが胸を打つ珠玉の名場面です。

### 【寺子屋】

菅丞相の門弟であった武部源蔵が、自分が菅む寺子屋で丞相の子、菅秀才を匿っています。しかし追手が廻り、その首を差し出せと厳命が下りました。苦慮する源蔵と女房戸浪でしたが折しもその日入門した小太郎を菅秀才の身替りとして、源蔵は悲痛な思いで討ちます。時平の使いとして来たのは菅秀才の顔を知る松王丸と春藤玄蕃。松王丸は意外にもその首を菅秀才だと認めます。

源蔵と戸浪が安堵したのもつかの間、小太郎の母が戻ってきます。口を封じるために源蔵は母に斬り付けます。しかし、その母の口から意外な事実が…この母は、松王丸の女房千代、菅秀才を助けるために自分の子を身替りになるよう連れてきたのでした。やがて戻ってきた松王丸からも真実が語られ、松王丸に助けられた丞相の御台園生の前が晴れて菅秀才と再会を果たします。一同は小太郎の菩提を涙ながらに弔うのでした。緊迫感と意外な劇的展開で、歌舞伎狂言の中でも屈指の傑作。幕切れの「いろは送り」は哀切のこもった美しさで見逃せません。



- 地下鉄/半蔵門線(半蔵門駅)1番出口徒歩5分  
有楽町線・半蔵門線・南北線(永田町駅)4番出口徒歩8分・2番出口徒歩10分
- 都バス/都03(晴海埠頭-四谷駅)三宅坂徒歩1分  
宿75(新宿駅西口-河田町-四谷駅前-三宅坂)三宅坂徒歩1分
- 駐車場完備